

福島県県民健康管理調査「基本調査（外部被ばく線量の推計）、甲状腺検査」の概要について

福島県「県民健康管理調査」検討委員会
平成23年12月13日

福島県では、東京電力福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、長期にわたり県民の健康を見守り、将来にわたる健康の維持、増進につなげていくため、「県民健康管理調査」を行っております。

調査は、「基本調査」と「詳細調査」に分けて行います。

基本調査では、個々人の外部被ばく線量を推計するため、3月11日以降の、全県民の行動を把握するための調査を実施しており、詳細調査として、震災当時概ね18歳以下の県民を対象とした甲状腺超音波検査、避難区域等の県民を対象として、検査項目を拡充しての健康診査を実施するほか、妊産婦や生活習慣やこころの健康度に関する質問紙調査に取り組むこととしております。

1 基本調査（外部被ばく線量の推計）

(1) 基本調査回収状況（平成23年11月30日現在）

調査対象者数 2,057,053名 発送済数 2,042,058通
回収数 371,039通（回収率18.0%）

内、先行調査地域（川俣町（山木屋地区）、浪江町、飯舘村）

調査対象者数 29,103名 発送済数 29,048通
回収数 14,324通（回収率49.2%）

(2) 外部被ばく線量の推計結果（詳細；別添のとおり）

- ① 県民健康管理調査「基本調査」では、平成23年3月11日から7月11日までの県民の行動を把握し、（独）放射線医学総合研究所の開発システムを用いて4か月間における外部被ばくによる累積線量の推計を行う。
- ② 今回、上記先行調査地域（川俣町（山木屋地区）、浪江町、飯舘村）のうち、1,727名についての推計結果をまとめた。
- ③ 放射線業務従事経験者（138名）を除く1,589名の累積被ばく線量
1ミリシーベルト未満 998名（62.8%）
5ミリシーベルト未満 1,547名（97.4%）
10ミリシーベルト未満 1,585名（99.7%）
10ミリシーベルト超は4名で、最大は14.5ミリシーベルト（1名）
※20歳未満（311名）の状況
1ミリシーベルト未満 193名（62.1%）、3ミリシーベルト未満 293名（94.2%）
5ミリシーベルト未満 304名（97.7%）で全員が10ミリシーベルト未満
- ④ 放射線業務従事経験者を含む全数（1,727名）の線量
1ミリシーベルト未満 1,084名（62.8%）
5ミリシーベルト未満 1,675名（97.0%）
10ミリシーベルト未満 1,718名（99.5%）で最大は37.4ミリシーベルト（1名）

⑤ 評価

これまでの疫学調査によれば、100ミリシーベルト以下での健康影響評価は確認されていない。今回の4か月間の外部被ばく線量の推計値は、1,727名の結果であるが、一般の方は15ミリシーベルト未満であったこと、また、(独)放射線医学総合研究所による試算によれば、空間線量が高い地区に居住した場合でも、20ミリシーベルト未満となったことから、これにより放射線による健康影響があるとは考えにくい。

いずれにしても、今後しっかりと健康管理を進めてまいりたい。

なお、外部被ばく線量は、個人ごとの行動により、その推計値が異なることから、県民の皆さんに、基本調査に回答、活用して、自らの外部被ばく線量を確認するよう、あらためてお願いしてまいりたい。

2 甲状腺超音波検査

(1) 対象者

平成23年3月11日時点で18歳までの全県民

具体的には平成4年4月2日から平成23年4月1日までに生まれた県内居住者（県外避難者を含む）

※ 平成26年度以降は、平成4年4月2日から平成24年4月1日までに生まれた県内居住者（県外避難者を含む）

(2) 実施計画

福島県立医科大学（以下「医科大学」という）、県内外の医療機関等が連携して甲状腺超音波検査を実施する。

また検査の結果、結節性病変（しこり）等が認められた場合は、医科大学附属病院等において二次検査（精密な超音波検査、血液検査、尿検査等）を行う。

○これまでの検査実施状況（平成23年12月 9日現在）

検査済者数11,534名